

令和6年度 とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	46
学校名	富山県立高岡支援学校

学校の現状と課題		小学部・中学部・高等部の3つの学部があり、233名の児童生徒が在籍している(11月に小学部に1名転入)。一人一人の障害特性に違いはあるが、ダンスやエアロビクス等音楽に合わせた運動が好きな児童生徒が多く、積極的に授業に取り入れている。活動中は笑顔で意欲的に活動している児童生徒は多いが、自ら好きな活動を選び、継続して取り組もうとする児童生徒は少ない。そこでダンスの専門家を招聘し、ワークショップを行うことで、児童生徒が身体表現の楽しさを味わい、意欲を喚起し、それをきっかけに継続した運動にできないか考えた。またダンスの他ピラティスのワークショップも行うことで興味・関心の幅を拡げ、将来にわたって主体的に好きな運動を選んで取り組むなど、体力向上や余暇活動の充実につなげる教育活動を行った。	
テーマ(特色)		好きな運動に親しみ、主体的に体力向上を目指した児童生徒の育成	
設定した「テーマ」の達成状況		○ダンスやピラティスのワークショップを通して、児童生徒は意欲的に講師の示範を見ながら動いた。昨年度より身体を動かし、元気に活動する機会を増やすことにより体力がついたのかの確証はないが、昨年度より全体の体調不良による欠席日数がかかなり減少している。(4月～1月末) ○体育、自立活動の授業で体力向上教材を使用することで、バランス感覚や体幹が向上した児童生徒が増えた。 ○保護者との懇談会等で紹介することで、家でもスポーツに親しむ家庭が増えてきている。	
実施内容 (具体的に記入する)		○ダンス ワークショップ実施回数(1回45分 全13回) ・小学部 5回 中学部 4回 高等部 4回 ○ピラティス ワークショップ実施回数(1回45分 全12回) ・小学部 4回 中学部 4回 高等部 4回 ○体育や自立活動の学習活動の中で、各学部の実態に合わせた体力向上教材の活用 ・小学部・・・バランスボール、ヨガマット、バランスマーカー ・中学部・・・トランポリン ・高等部・・・ドッチビー、ジョイントマット ○毎日の連絡帳、学期末の保護者との懇談会等で、ダンスやピラティスを行っている様子を紹介し、家庭と連携しながら運動に親しむ機会が増えた。	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)		○ダンス・ピラティス ワークショップ ・ダンス 児童生徒の実態に応じて同じ動き、ステップの繰り返しがあり理解しやすい動きだったため、主体的に活動する姿が多く見られた。また次のワークショップを心待ちにしている児童がいた。また軽快な曲と難易度もある動きを準備してもらい、高揚感が高まりそうな活発な指導で生徒たちは最後まで楽しく意欲的に活動に取り組んでいた。学校生活の中で気軽に取り組む機会となり、昼休み等もダンスを行う生徒もいた。 ・ピラティス 児童生徒が講師のポーズを見て、考えながら体を動かして楽しく体験することができた。狭い空間であってもある程度の運動量を確保し、汗をかきながら活動した児童生徒が多く見られた。 ○体力向上教材 ・ヨガマットを使って寝転がって行うポーズや片足立ちなど10秒間姿勢保持を行う運動を主に行った。挨拶の姿勢が良くなってきた。 ・バランスボールの上に座り、上下に揺れることで、体幹が鍛えられてきた。 ・トランポリンを一定時間音楽に合わせて跳躍し続ける活動を繰り返し行うことで、体幹になる筋肉が鍛えられ、姿勢も維持できるようになったり、継続して全身運動を行っても疲れにくくなった。したり。 ・ストレッチやヨガをする際、一人一人の場所を確保でき、座ったり寝転んだりして行う運動に取り組みやすく、生徒たちが伸び伸びと運動に取り組めた。	
対象者(学年・人数など)		小学部全児童(122名)、中学部全生徒(50名)、高等部全生徒(61名)	
実施実績	4月	ダンス・ピラティス講師の選定	トランポリン、ストレッチポール等の選定
	5月	ダンス・ピラティス講師と各学部との日程調整	トランポリン、ストレッチポール等の購入
	6月	ダンス・ピラティス講師招聘のワークショップ	トランポリンやストレッチポール等を利用した学習活動
	7月	↓	↓
	8月	↓	↓
	9月	↓	↓
	10月	↓	↓
	11月	↓	↓
	12月	↓	↓
	1月	↓	↓
	2月	まとめと振り返り	
	3月		